

びぜん光正 県議が12月7日、11月県議会（11/29～12/14）一般質問に立ちました。質問と答弁の要旨を紹介します。



＊＊ 災害時の在宅人工呼吸器医療について ＊＊

びぜん 今年9月の台風の長時間停電により、在宅人工呼吸器装着の電源が切れた事への対応を求める声が出ている。電力供給が途絶えると即命に関わる。在宅人工呼吸器利用者の状況把握は。

健康福祉部長 災害対策基本法により市町村には避難行動要支援者名簿作成が義務づけられているが、人工呼吸器利用者は名簿に記載していない市町村があった。未掲載の市町村には速やかに掲載を働きかける。

びぜん 東京都などでは、在宅人工呼吸器利用者に対し自家発電機等の予備電源の無償貸与制度がある。長野県も導入すべきでは。

健康福祉部長 病院から在宅に移行する際に一定程度の予備電源を保有することになっており、また一部の市町村において災害に備え電源確保に関わる対策が講じられている。電力会社も応急対策用に発電機を保有している。今後、関係機関等と検討していく。

＊＊ 介護保険について ＊＊

びぜん 介護職の平均給与月額が全産業平均より10数万円も低い。抜本的な介護報酬の引き上げを国に求めるべきでは。

健康福祉部長 県として介護職員処遇改善のための加算取得や、キャリアアップの介護事業所の取り組みを支援している。11月に厚生労働省に、介護職員処遇改善制度の改善や拡充について要望した。

びぜん 10月からの訪問介護における頻回訪問ケアプランの届出義務化により、ケアマネージャーは結果的にサービス利用を制限するケアプラン作成を指導されていると聞く。必要なサービスの抑制をしないような取り組みをしていただきたい。

健康福祉部長 関係者らに告示で定められた回数を超えてはならないという誤解が少なからずあるが、利用制限を行う制度ではない。制度の趣旨をしっかりと説明していく。

＊＊ 信州F・POWERプロジェクトについて ＊＊

びぜん 本事業には25億円の税金が投入されており、経営状況等の説明責任がある。

副知事 個別企業の経営状況については、法人の権利や利害を害するため公開を前提としていない。

びぜん 発電所の起工式で、社長は「万が一（燃料材が）不足する場合は県外から調達し不足することはない」と発言。県産材の活用を謳ってきた県としてはどう捉えるのか。

知事 災害時の不測の事態を想定した発言。基本的には県産材の活用により事業を進めるものと認識している。

びぜん 塩尻では放射線測定装置を市が設置というが、事業者設置とすべきではないか。

林務部長 県は放射線チェックの負担は承知していない。